

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（野菜）

認証取得者氏名	有限会社ティーエム	認証番号	50-00382	地事名	北安曇
地域（標高）	白馬村（700m）				
土壌（土性）	礫質灰色低地土				

項目	生産計画の内容	補足メモ
1 栽培状況	(1) 品目 ミニトマト（品種：キャロル10）	萎凋病、モザイク病、葉かび病に抵抗性、斑点病に耐病性、センチュウに耐虫性を持つ
	(2) 作型名 ハウス雨よけ	
	(3) 面積 11.7 a	
	(4) 栽培戸数又は労働力 1戸	
	(5) 栽培期間 平成28年4月～平成28年10月	
	(6) 収穫期間 平成28年7月25日頃～平成28年10月10日頃	
	(7) 収穫量 H27実績 100 kg（うち出荷量：100 kg） (11.7aあたり) H28計画 1,500 kg（うち出荷量：1,500 kg）	栽培面積1a程度

2 栽培方法	(1) 土づくり	牛糞入りキノコ廃培地堆肥を春に5t/10a施用																					
	(2) 播種	平成28年 3 月 29 日																					
	(3) 育苗期間	平成28年 3 月 29 日～5 月 30 日																					
	(4) 定植	平成28年 5 月 30 日																					
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <p>キノコ廃培地の堆肥を土づくりに使い、基肥に下記の有機成分を含む肥料を畝に局所施肥することで、化学肥料由来の成分を低減している。 また、適正な施肥量となるよう、生育を観察し、同肥料を追肥している。</p> <p>技術を導入する際の考え方</p> <p>土壌診断の結果に基づき、施肥計画をつくり、必要以上の成分をあたえないよう化学肥料は生育の様子を見て、主に追肥で与えるようにしている。 バイオ酵素を含む堆肥を施用し、土壌微生物を増やすことで、化学肥料が低減できる土づくりをしている。 化学肥料についても研究を行い、適した成分設計の肥料を自ら発注し、施用している。</p> <p>肥料の施用内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量 (kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機入り高度化成4-4-4</td> <td>100</td> <td>14.0</td> <td>13.5</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> <td>14.0</td> <td>13.5</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>低減率 (%)</td> <td>55.0</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	有機入り高度化成4-4-4	100	14.0	13.5	14.0	合計	100	14.0	13.5	14.0	地区慣行施肥量 (kg/10a)	30	低減率 (%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)																					
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																			
有機入り高度化成4-4-4	100	14.0	13.5	14.0																			
合計	100	14.0	13.5	14.0																			
地区慣行施肥量 (kg/10a)	30																						
低減率 (%)	55.0																						

2 栽培方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防虫ネットの使用による殺虫剤の低減 <p>技術を導入する際の考え方</p> <p>白馬村は清涼な環境であり、比較的病害虫の発生は少ない。そのため、病害虫の発生状況についてはよく観察し、適期にしっかりと効き目のある防除を行い、極力農薬の使用を抑えるよう努めている。土づくりをしっかり行い、病気にかかりにくい農作物を育てる。</p> <p>病害虫防除の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺菌剤</td> <td>① ハーモメイト水溶剤</td> <td>800</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>うどんこ病、灰色かび病、さび病</td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td>② アファーム乳剤</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>オオタバコガ、トマトサビダニ、マメハモグリバエ</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">※農薬名に番号を付記</td> <td>合計</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 70%;">農薬の使用回数</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>削減率 (%)</td> <td style="text-align: center;">93.3%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	殺菌剤	① ハーモメイト水溶剤	800	1	1	1	1			うどんこ病、灰色かび病、さび病	殺虫剤	② アファーム乳剤	2,000	1	2	2				オオタバコガ、トマトサビダニ、マメハモグリバエ	※農薬名に番号を付記					合計	3	1	0	30	農薬の使用回数	2	地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)	30	削減率 (%)	93.3%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫																																						
	殺菌剤	① ハーモメイト水溶剤	800	1	1	1	1			うどんこ病、灰色かび病、さび病																																						
	殺虫剤	② アファーム乳剤	2,000	1	2	2				オオタバコガ、トマトサビダニ、マメハモグリバエ																																						
	※農薬名に番号を付記					合計	3	1	0	30																																						
農薬の使用回数	2																																															
地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)	30																																															
削減率 (%)	93.3%																																															
(7) 雑草防除	畝にマルチを張り、畝間には防草シートを引くことで雑草の繁殖を抑え、必要の場合のみ機械的に除草を行うことで、除草剤は一切使用しない。																																															
(8) 収量の状況	畝幅90cm, 株間30cm, 1条2本仕立て、平均7段獲り、平均収量1.2t/10a, 収穫期は週120kgずつ出荷																																															
(9) その他特記事項	化学肥料、化学合成農薬の軽減だけでなく、残留農薬や水の検査も行い、その結果に基づいた栽培を行っている。																																															

3 販売状況	(1) 主な販売地域	関西 (70%), 県内及び加工 (30%)
	(2) 販売方法	委託販売、地元の直売所
	(3) 県認証の活用方法	取引先との商談時のPR材料として
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	減化学肥料・減化学合成農薬の安全・安心でおいしい農産物ということで関西圏で安定した販路を確保している。

始めた動機	<p>サラダボールに入る売れる野菜ということでミニトマトの栽培を始めた。 白馬は清涼な気候で病害虫の発生が少ないことを強みに、土づくりに力を入れ、減化学肥料、減化学合成農薬に取組み、安全・安心でおいしいミニトマトを栽培したいと思い始めた。</p>
農家のコメント	<p>環境にやさしい農業を行うため、土づくりを基本に、牛糞入りキノコ廃培地堆肥を施用し、減化学肥料・減化学合成農薬の安全・安心な農産物の生産を行っている。 環境にやさしい農業を基盤として、GAPで生産工程管理も行い、より品質のよい安定した農業生産が行えるようこれからも研究を重ねていきたい。</p>

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培管理									播種						畝作り 施肥 定植									収穫開始									収穫終了			
病害虫防除																					②		①				②									
除草															マルチ被覆 防草シート																					
土づくり施肥	牛糞入りキノコ廃培地堆肥5t/10aを5月の畝づくり前に施用。																																			

ここがポイント！

<化学肥料低減技術>

キノコ廃培地堆肥を施用した土づくりを行い、自ら成分設計をした有機入り肥料を局所施肥することで、地域慣行施肥量に比較して55%化学由来成分を軽減している。

<化学合成農薬低減技術>

病害虫の発生状況についてよく観察し、適期の防除を心がける。

<栽培状況等の写真>



マルチの利用による雑草防除



生育状況